

魚津三太郎塾 ポスター集

第4期

(平成27年2月～10月)

平成27年10月30日作成

企 業 名

提案者(塾生)

日本海電業(株)

若林 健嗣

(有)大村造園

大村 充

(一財)魚津市施設管理公社

山本 大年

(有)源七

松原 祥子

ひえばた園

稗苗 良太

宮本みそ店

宮本 晃裕

(有)ミールサービス

芦崎 里香

三太郎塾発地方創生 魚と水の町魚津を作る「新しい公共」

日本海電業(株)とは?

魚津で創業して60年、電気・通信のインフラを守る仕事をしています。

- ・防災通信
- ・ダム管理
- ・水防データ
- ・災害対応
- ・電気工事

建設業であり常に「公共」を意識しながら仕事をしてきました。これからも地元のために働きたい!

「だかもしかし」

「公共」「建設」といえば世間の目は...

あまり面白い仕事じゃなさそう...

ハコモノ! 道路! またムダに税金を使うのか?

生活が便利になったら、もうする事ないでしょ?

「環境を大切に」といって、工事で壊した自然はそのままじゃない! おかしくない?

「地方消滅」進む人口減少、どうやって人を残す?

就職は都会でしたいな~いろんな仕事あるし?

新幹線も馬場に行った、魚津に任む必然性は?

子どもと思い出を作れる場所がほしいわ。この子も成長したら魚津を出るかも...



そこで考えた。

「地方消滅」課題に対応する「新しい公共」の役割とは?

- 「いま」の課題に対応した仕事
- 自ら「変化」を作る(面白み)
- 税金だけに頼らず、民間が力を発揮し、地域全体の収入を伸ばす土台を作る事業
- ★自然破壊(自然と人の対立)から持続可能な、自然との共生を築く仕事へ!

そこで **みずじゅんかん** 水循環 に注目



魚津の水循環とは...

魚津市は、海抜0mから標高2400m以上の山岳地帯ですが、奥行きわずか約25kmに収まる大変急峻な地形から成り立っています。この地形は海中まで続き、水深1000mにまで達します。この高落差地形の中を、表流水(片貝川、布部川、鶴川、南川、早月川)や伏流水(地下水)といったさまざまな水が流れ出ています。富山湾の海水は、蒸発して雲となり、...



つまり、水循環の「価値」とは何なのか。私たちは本当にそれを知っているのだろうか?

もっと直感的に、魚津にいる誰もが水循環の恩恵を感じるようにできないか?

身近に水循環に触れられるはずの「川」に目を向けてみると...



写真: 魚津水産部

- ・濁水(干上がり)
- ・土砂堆積
- ・植生の貧弱化
- ...etc

開発による環境悪化により、生態系の持続性が失われている。川は「生き物」である。魚津の川は、このまま死んでゆくかも知れない...

川の生態系の乱れは、山や海にも影響し、やがて私たちの暮らしにも影響する。

2014年「生物多様性うおづ戦略」が策定。生物多様性は、自然のためだけでなく、私たち人間のためにも守られる必要がある。

「治水」「用水」「電源開発」...人間社会の「公共」のために壊してきた川の自然を人と自然の共生型に直すことこそ「新しい公共」取り組み意義がある!

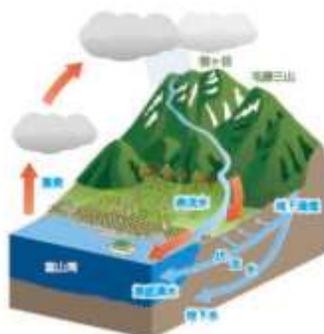
(実施イメージ)





POINT.1

魚津が守らなければ
ならない水循環。



魚津市は、海岸から標高2,400
m以上の山岳地帯に至るまでの直
線距離がわずか25kmしかない急峻
な地形から成り立っており、毛勝三山
などの山岳地帯に降り注いだ雨や雪
は、地下水や川となって富山湾に注
いでいます。この水循環によって生ま
れる水は、飲用や産業用にも利用さ
れ、魚津市の水道水は100%地下
水でまかなうことができています。

この貴重な水循環を残していくた
めには、海の世界保全はもちろんの
こと、山の保全も重要と思われま
す。そこで当社は、山林の間伐材に
着目しました。

POINT.2

山林を守るための間伐。

山林を維持していくための間伐作
業によって排出された間伐材。これ
を竹垣に使用することで環境にも
やさしく、景観の良い竹垣が生ま
れました。



庭園から水循環を守る。
間伐材を
有効活用
竹垣
bamboo fence



POINT.3

造園業界としての課題。

近年の公共工事減少に伴い、業界
全体の売り上げが減少傾向にありま
す。そして民間工事への転換が求め
られています。しかしながら民間のお客
様にもコスト面で抑えられているのが現
状です。コストを抑えるためにメーカー
製の既製品をオススメしてしまいま
す。そして既製品では、どこの庭園も同じ庭
園になってしまい、造園業者の**作家性**
が失われてしまいます。

そこで当社はオリジナル製品の製造
・販売をし、オリジナルの竹垣をお客
様にご提案していきます。そして当社だ
けがご提案できる庭園の実現が可能にな
ります。



POINT.4

自社で乾燥・加工。

間伐材を自社で乾燥・加工すること
によってコスト面でもメーカー社製品と
比べて安値で仕上がります。



POINT.5

心と環境の癒し。

竹垣のある庭園は心を癒してくれま
す。さらに当社の間伐材製の竹垣は環
境保全に貢献できる最良の製品とな
っております。



有限会社
大村造園

〒937-0807 富山県魚津市大光寺1210

TEL 0765-22-2661

HP <http://oomurazouen.com/>

E-mail oomurazouen@yahoo.co.jp

地域の子供を育むミラージュランド

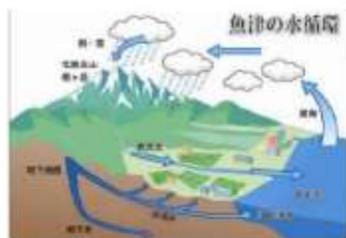
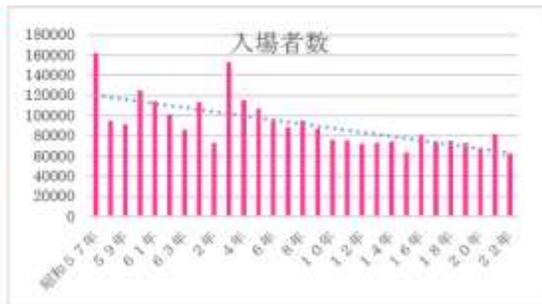
～遊んで支える魚津の水循環～



(一財) 魚津市施設管理公社 山本大年

現状と課題

魚津水族館の移設に伴い、魚津総合公園が整備されることとなり、総合公園の一施設として昭和57年にミラージュランドは開園しています。開園当初は、年間10万人以上（ピーク時16万人以上）の来園者がありましたが、**少子高齢化**や、**レジャーの多様化**により入園者の減少があり現在では年間約7万人と減少している。また、屋外施設である為、天候による影響が大きい、閑散期には人が来ない、有料の設備が多いため**地域の住民が気軽に足を運んでいない**等の問題も入園者減少の要因と考えられます。また、**指定管理者制度**により魚津市より施設を受託していますが、長期に渡る施設の維持管理及び運営をできる保証が無い、労働条件が不安定な為、正規職員の雇用、**人材の育成**が困難等の問題点が挙げられます。



魚津の水循環とは？

世界の縮図と言える魚津の水循環とは、水深1,000mの海底から標高2,400m以上の山々がわずか25kmに収まる大変急峻な地形であり、水の循環サイクルが一つの市で完結している世界でも稀な地域です。その水循環システムのおかげで私たちは、豊富な水資源や豊かな海産物等、様々な恩恵を受けており、また、生態系サービスも支えているので今後も魚津の水循環を守っていかねばなりません。そこで、水循環の中でも重要な役割を担う山林を保全する為の間伐作業によって生まれる**間伐材**を活用しようと思います。

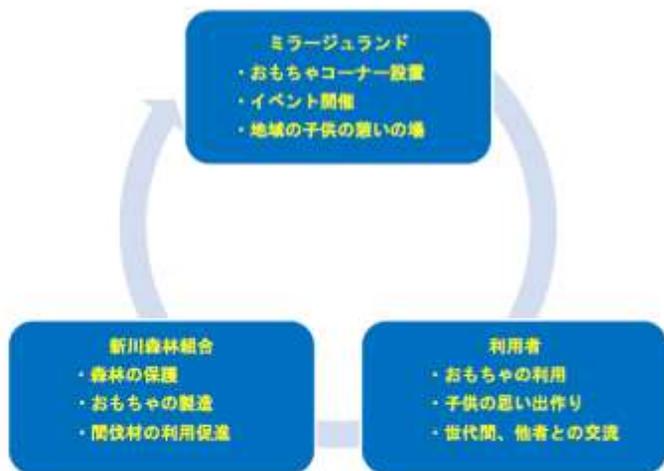
魚津の水循環を支える間伐材おもちゃコーナー

地域資源である、にいかわの間伐材を用いたおもちゃ（積み木、パズル等）を新川森林組合に制作、協力して頂き、当施設に間伐材おもちゃコーナーを設置し来園者に楽しんでもらいながら魚津の水循環を支える。遊園地の遊具のほとんどが有料となっており地域の住民が気軽に来園していない状況となっているので、無料のコーナーとして設置する事により気軽に足を運べ、間伐材のおもちゃを通して**世代間交流**、**他者との交流**を生む事ができ、さらには、**地域の子供達の憩いの場**として**思い出に残る場所**となるようにしていきます。

また、工作イベントの開催や、新しいおもちゃ又は遊具の導入等、間伐材の利用を促進する事により魚津の水循環を維持します。



※イメージ画像（富山県HPより転用）
http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1603/k/00009298.html



この事業により見込める効果

- ✓ 魚津の水循環の維持及び周知に貢献
- ✓ 世代間、他者との交流の場
- ✓ 地域の子供たちを育てる場
- ✓ 地域住民が気軽に利用できる場所の提供による来園者増
- ✓ 来園者増により自社の収益増

将来像

今後、ますます進む少子高齢化や、人口の減少、環境の悪化等様々な問題がありますが、地域の資源を地域のみんなで守り、活用し、魚津がより発展する為の一員になればと思います。みんなが必要とする魚津、なくてはならない魚津を目標に、地域社会との連携を目指します。

輪で守る水循環 ~ うおづって “ちょうどいい” ないけ ~

(有)源七 松原祥子

源七のこだわり

原料にこだわり・・・

餅米は富山県産の1等米を100%使用しています。

文化にこだわり・・・

郷土料理の(芋かきもち)や、餅文化の伝統を守り、さらに改良しながら提供しています。

魚津の水循環って？

2400M級の山と水深1000Mの海で合わせて高低差3400Mの特異な地形。降雪が多く、常に水が豊富。森からの栄養を豊富に含んだ水は、急流な川で新鮮なまま海へ流れていて、その恩恵を受ける多数の海産物、農産物、生命が育つ。そしてこの水は世界でもトップクラスの名水であるにもかかわらず、知名度が低い。

強みは

豊富で上質な水の恵みを受け、一年を通してさまざまな産物が生まれる環境がある。
ALL魚津産商品の産物を取り込んだ開発・販売ができる。

課題は

魚津産のもち米生産量、消費量が年々減っている。
お菓子ニーズの変化 お餅文化が伝承される？

お餅文化を
伝承したい

1番おいしい
お水の街



あんしんして食せる！おいしくてワクワクする商品の開発・販売！

その1・ちょっとオシャレで新しい‘OMOCHI SWEETS’
その2・季節の産物で‘OYASAI MOCHI’
その3・ケータリングCARで伝えながら対面販売

生産現場体感
エコツーリズム

OMOCHI
SWEETS

素材への
興味

生産者
(米、野菜)

消費者
(食の安全)

源七

原料

商品

季節の野菜・もち米
(JAうおづ協力)
「OMOCHI SWEETS」を創る
にあたり品質検査に持ち込まれた
1等品質の新大正米を三軒か
ら仕入れ、1番相性の良かった
米を厳選し造りました。

広めて…特別価値の伝わる商品を統一ブランド **Clear** に

認定

Clear=水がクリア、基準をクリア、次世代の将来をクリアに
水は100%魚津の水を使うこと。原料の60%以上を魚津の産物とすることが条件で源七にて認定後シール贈呈。
地域全体で盛り上げ、美味しいものいっぱいのお水の街といったイメージを発信



自然の
恵み



トクベツの
美味しさ



新商品(ビジネス)で
伝統と自然の貴重さを次世代に伝える

こどもの頃に食べたおいしいはずと心に残る味
食を通じて人と人の輪がつながり魚津の自然・・・世界の自然を守る・・・

現状

- ・お米を中心とした自然栽培農家
- ・魚津市の里山 稗島・鉢地区で生産。無農薬、無肥料、はさがけ天日干しては富山県唯一の米専業農家
- ・全国に顧客を開拓 自ら直売

課題

- ・すべての面積を無農薬栽培にするのは人件費がかかりすぎる
- ・生産コストと環境負荷の両立

コンセプト

- ・特異な水循環を理解し伝える
- ・持続可能な農業への移行
- ・地域環境と経済への貢献



うおづの水環境とひえばた園との関係

魚津市は海岸から山岳地帯に至るまで直線距離で約25kmしかない大変急峻な地形から成り立っています。この地形は海中まで続き水深1,000mまで達します。この高低差3,400mを表流水(井貝川・早月川・角川など)、伏流水と地下水といった経路で流れ富山湾へ流れ出た水は蒸発して雲となり雪や雨となって毛勝三山や磐ヶ岳に降り注ぎます。

魚津の海と大地を巡る循環のなかで作りだされる水は優れた水質と豊富な水量をもち山や里、川、海の様々な場所で作る生物を育み、市民の生活や産業を支えています。このような水循環が一つのまちで完結しておりまたその循環を一日で見渡せる特異な地形は世界的にも稀でこの循環の中で私たちの生活が成り立っています。

ひえばた園はこのような水循環システムの中で山岳地帯と平野部との中間地域に位置し山岳地帯に降り注いだミネラル豊富な雪や雨水を最初に農業用水として利用し米づくりをしています。用水路はイワナやヤマメが泳ぐほどの清流で美味しい米づくりの一環を担っています。また田んぼは一時的に雨水を蓄えるダムの役割をしています。水の急激な流失を防ぎ、河川の流れを安定させ、下流での洪水や異況での土砂崩れをい防いでいます。



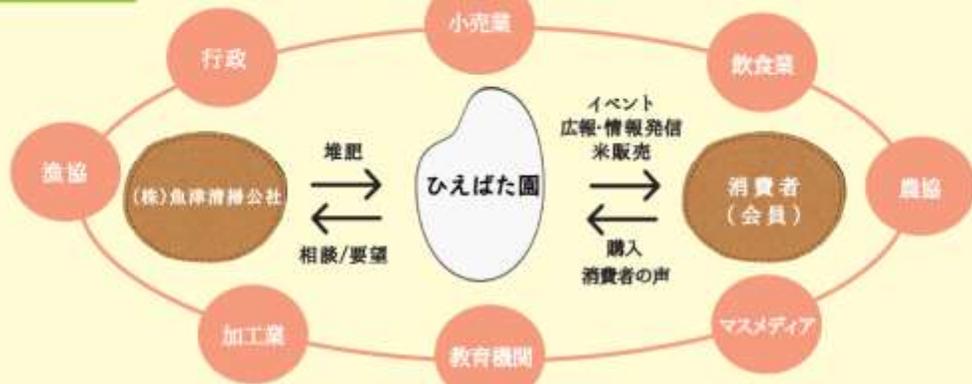
地域密着型の有機栽培米を
低価格でブランド化
消費者の食と地域に対する意識改革

地元のご近所のお米が買えない！
環境やお米についてもっと知りたい！
こどものアレルギーが心配...

STOP!!
過剰な化学肥料と農薬
LET'S!!
循環型の地産地消



GOZZUOの事業内容



生産

肥料は魚津清掃公社の野菜くずとカニがら堆肥、間伐材と業樹剪定枝堆肥の2種類を使用しとことん地域循環にこだわる。農業は初期除草剤のみの使用で通常の約9割減。生産コストと共に環境負荷を軽減。安全・高品質な堆肥と減農薬で、水と大地を守り消費者の未来の食卓を支える。

販売

年間を通して安定供給するため年間予約販売を実施。決済は1回払いまたは2回分割とし農家のキャッシュフローを支援。市内飲食店と連携して「GOZZUO」を使ったメニューの開発。販売は直売だけでなく、市内のスーパーや直売所、催事、イベント出店で市民の皆さまに、より身近なものにする。

広報

プロジェクトを応援する「GOZZUO会員」を募集。田んぼと食卓をより身近にするために、会員向けにはよりコアな情報を発信。メルマガやブログにて生育状況や日々の農作業の共有。会員間のコミュニティを充実させるために勉強会、農作業体験、収穫祭などの各種イベントの積極的に開催。また、日々の食卓の情報共有の場としてSNSを利用。会員自らが「GOZZUO」ブランドを育てる仕組みづくり。

将来像

- 生産仲間(GOZZUO農家)が増え、魚津のスタンダードな米づくりの実現をする！
- 消費者の地域愛を育むことで地域経済がまわる！
- 異業種間の人・もの・カネ・情報の流れが活発になる！



日本一の味噌創り ～魚津自然塾設立プロジェクト

『もしも日本に味噌や醤油がなかったら…』

相食は油と塩だけで味付けされていたに違いなく、とても退屈なものだったろう。日本の食文化は発酵無しには語れないと言っても過言ではない。それを支える「微生物(菌)」と「魚津の水循環(自然環境)」といった目には見えないモノ達が与えてくれている恩恵を次代へ継承していく為、魚津の味噌屋としてできることは何かを考えてみた。



『かけがえのない水循環を守る』

地域での現状と課題

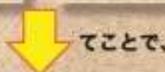
- ・小売価格の前下げが横行している反面、原料価格の高騰は歯止めが効かない。製造業者の経営悪化。
- ・食の欧米化によって日本食が失われつつある。
- ・核家族化が進み、昔のような賑やかな食卓が減った。
- ・地球温暖化が更に進行すれば、味噌醸造・水循環に深刻な影響を与える。
- ・農業従事者が全くいない。(特に若い世代)

宮本みその現状と課題

- ・原料の自社生産に踏み込みたいが、現在のシゴト量を考えるとなかなか難しい。
- ・限りある醸造設備・販売量の分析と計画的な製造量の設定(むずみに造らない)
- ・味噌の本質、ストーリー(原料を作る所から味噌を食べる所まで)をもっと伝えることが大切。
- ・魚津でしかできない味噌。ここでしか買えないものを創り出す。地域の特徴になる。



(魚津市HPより引用)



ことで、

- ・原材料は自社で作ればいい! 休耕田を利用して米・大豆(在来種限定)を栽培することでこだわりの地元産原料を確保し、また土壌微生物・ミミズ等が住みやすい農地にすることで雑草の繁茂・排水施設管理の支障等を防ぐ。
- ・「麹菌」が日本食の原点になっているということを次代へ伝える為のWSを開催。仕込み方法の指導や、麹・味噌の大切さを伝えるとともに、地域全体での味噌製造量・消費量の増加に努める。
- ・人と麹(菌)にとって「良い環境」を保全する。

魚津市は、海抜から標高2400m以上の山岳地帯に至るまで、直線距離でわずか35kmしかない大変急峻な地形から成り立っており、平野三山などの山岳地帯に降り注いだ雨や雪は、川や地下水となって扇状地を流れ、富山湾に注ぐ。豊かな自然に恵まれた魚津市は水循環の恩恵を受けて成り立っている。

『日本一の味噌創り』

Farmwork (農作業体験)

地元市民・農家からも力を借り、休耕田を利用した米・大豆・その他野菜の栽培を行う。それらを原料に味噌を仕込んだり、野菜と味噌を使った加工品の開発・販売を行う。また、できた作物を醸造し、種子の採取を何年も繰り返すことで地域オリジナルの作物を育てる。

Workshop (味噌造り体験)

Farmworkで育てた原料を使用し、味噌造り体験を企画する。魚津でしか造れないストーリーのある地域の味噌を育てていく。現場は「祖父母と孫」「親と子」といった子供達を主役にする。そこで水循環と微生物がもたらしてくれた自然の恵みの有難さを感じていただき、日本食を次代へ継承させる必要性を伝える。



Farmwork～Workshopまでの流れ(大豆栽培)

『将来像として』

- ・超高品質な原料を確保し、それを使用して日本一の味噌をここ魚津で制作する。
- ・地域の味噌に対する意識を変化させ、地域全体の味噌消費量を増加させる。
- ・籠の原点を広く伝えるとともに地域全体で日本の食文化の未来を考え、その必要性を伝承させていく。
- ・更なる発展として「魚津自然塾の設立」に臨む。

魚津自然塾の主なプログラムの内容

<裸足の道>

目隠しとして裸足になり芝生、砂利、落ち葉、丸太などの様々な工夫された道を歩き感覚を磨いて第一歩情報を得る。

<森と水の教室>

私たちの暮らしを支える「魚津の水循環」と酸素と水を供給してくれている「森」と私達との関係を考える。

<46億年地球の道>

地球46億年の歴史を460mの距離に置き換えた道を歩きながら、過去に起きた地球の壮大なものが足りるを知見する。

<石の地球>

海、陸地、熱帯林のことを直径1mの石の地球を使って地球の構造や地球と太陽の関係等を学ぶ。



親子で魚津の水循環と地球を体感的に学べるプログラムを通して自然環境に

関心を持つ人を増やすことで「微生物と水循環」を守っていく。

『食』を通じて、魚津の水循環を守り、地域課題を解決

魚津三太郎塾 4期生 芦崎 里香 有限会社 ミールサービス

魚津市は、富山湾の海底から毛勝三山(標高2,400m)の山までの高低差が4,000mもあり、海拔0mからその毛勝三山までの距離が僅か25kmしかない大変急峻な地形から成り立っています。急峻な山からは片貝川や早月川といった川が河口近くまで速い流れを保ち富山湾に注いでいます。この類稀な地域の中で、私たちは当たり前のように過ごしています。川の流れが速いことは水の中の不純物の量が少ない、つまり水の質が良いということです。水は貴重です。生命の源です。私たちはこの恵まれた環境の中で、良質な魚津の水(表流水、伏流水)を利用し、『食』を育み、収穫し、生きています。しかし、生き方の多様化で結婚や出生率の減少、若者の都会流出など、社会環境は変わってきて、この魚津も1990年代後半より人口数が減少に転じています。

わが社は、この絶ゆることのない魚津の水循環に感謝するとともに、魚津の水循環とわが社の技術を活用してこれからの魚津が直面する人口減の課題に取り組み、どの様に地域課題が解決できるかを考えていきます。



これからの魚津が直面する課題



人口減少に伴うわが社を取り巻く課題



- 魚津の水は、昔言て水質も良い
- 自社で農作物を栽培したい
- 何とか組み合わせられないだろうか?
- 水耕栽培なら自社でできる

M Mountain / Mineral

当社の強み①
農作物を無駄なく利用
形が悪いというだけで出荷できない棚外の野菜なども用いる。農作物を無駄なく利用。

L Life / Local

新しい雇用の創出
主婦や定年後の方、高齢者や障がい者をターゲットに本人が希望する自由な労働時間を設定。
タイムシェア・ワークシェア・ターン・リターン等。

小水力発電による電力調達
今後、技術の発達により発電システムの小型・低価格化が予想され、それに伴い小水力発電を導入。事業で使用した排水で設備の電力を補い、使われた魚津の水が電気エネルギーとして再生。

商店街の空き店舗を再活用
屋内栽培による安全・安心なメニューをお客さまに提供できるお店を魚津市内の商店街空き店舗を使って出店。また、自社栽培を手かけた技術や園芸技術を用いて、野菜栽培・料理教室などワークショップを行い、地域の皆様へ知識の還元を行う(魚津の水循環の大切さも広められる)。それによる、商店街を活性化し、交流人口の拡大。



『ミールサイクル』5つの利点

- 1 魚津の水循環を利用し、守るという環境意識の向上
- 2 農業従事者減少のリスクが伴わない安定収穫
- 3 屋内作業のため、気候変動を受けない安定生産
- 4 自社の既存の強み・特技を活かしつつ、水耕栽培を取り入れ、魚津の水循環と地産地消に繋げる
- 5 『ミールサービス』の『ミールサイクル』でブランド化

E Ecology / Eat

当社の強み②
食材の調理加工・盛り付け
人は嗜好も味覚も様々。弊社では手作りの料理を取り入れ、お客様のお食事の時間が「楽しみなひと時」となるよう、食べる方と作る者のコミュニケーションを大切にしている。

当社の強み③
見守り・声かけ・安否確認
コミュニケーションの一環として配達時と回収時に行っている「見守り・声かけ・安否確認」は、一人暮らしの方たちへ声をかけることによって、福祉サポートを行っている。

A Action / Avail

ミールサイクルから見える3つの展望

- 人口減少社会の中においても、柔軟な労働時間を設定することにより、**新しい雇用の創出が期待**。
- 徐々に栽培品種を増やし、自社栽培の比重を高めることによって、**農業従事者減少時代を迎えても、生産力を上げられる**。
- 不純物の量が少ない魚津の水を使った食材を使用していることを利用者にPR。従業員や利用者を含め、この**魚津の水循環の中で生活している**ということを広められる。